

統合神経生理学

指導教授名 神 作 憲 司

第1学年：

- ・ 日本生理学会、日本神経科学学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・ 教室で開催しているミーティングに参加し、J Neurosci、Nat Neurosciなどの学術雑誌の論文をよみ、専攻領域の学識を高める。
- ・ 教室で行われているヒトおよび動物の行動実験等に参加し、その実験・解析手技を習得するとともに、その実験結果の生理学的意味について理解を深める。
- ・ 教室で開催しているミーティングに参加し、教室の他の者が行っている実験に触れ、専攻領域についての理解を深める。

第2学年：

- ・ 国内学会に参加するとともに、北米 Neuroscience Meeting、American Physiological Meetingなどの学会にも参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得するとともに、学会参加者とのディスカッション能力を高める。
- ・ 教室で行われている各種イメージング手法、パッチクランプ記録等の電気生理学的手法、分子生理学的手法などを用いた実験に参加し、その実験手技を習得するとともに、自身の研究テーマについての方向性を見出だし、研究計画を立案する。

第3学年：

- ・ 実験に必要な実験手技の習得を継続しつつ、研究計画を遂行する。
- ・ 実験を遂行し、データの解析を行う。
- ・ 教室で開催しているミーティングで、実験結果をプレゼンテーションし、教室員とディスカッションし、助言・指導を受ける。
- ・ 国内外の関係学会に参加し、研究に関連する学術情報の理解、習得に努める。

第4学年：

- ・ 国内外の関係学会に参加し、研究に関連する学術情報の理解、習得に努める。
- ・ 研究結果を関連する学会において発表する。
- ・ 論文作成を完成して、学術雑誌に投稿する。
- ・ 必要に応じて Revision 等の作業を進めて Accept を目指す。
- ・ 学位論文審査を申請する。

微 生 物 学

指導教授名 増 田 道 明

第1学年：

- ・研究倫理に関する指導
- ・研究テーマに関連する学術論文、総説等の資料提供および資料検索法（Pubmed 等）の指導
- ・研究デザインの方法に関する指導
- ・研究に必要な実験に関する原理や手技、注意点等の指導
 - ① 各種実験器具や機器類の正しい使用法
 - ② 微生物を取り扱う際の無菌操作
 - ③ 遺伝子解析技術（DNA 抽出、PCR 法、クローニング、塩基配列決定法など）
 - ④ 遺伝子組換え生物の使用等に関すること
- ・実験内容やデータ等の所定の実験ノートへの記録に関する指導
- ・オンラインツールや遺伝子解析ソフト等を用いたデータ解析法の指導
- ・研究進捗状況に関する講座内のミーティングでの発表と協議
- ・学会での研究成果発表に必要なプレゼンテーション技法の指導

第2学年：

- ・「実験→データや論文資料に基づく考察→次の実験」というサイクルに関する指導
- ・研究の進捗状況に鑑み、新たに必要となる研究手法に関する指導
- ・研究進捗状況に関する講座内のミーティングでの発表と協議
- ・学会での研究成果発表
- ・論文の作成技法に関する指導

第3学年：

- ・自律的な研究サイクルの遂行状況に関するチェックとフィードバック
- ・研究の進捗状況に鑑み、新たに必要となる研究手法に関する指導
- ・研究進捗状況に関する講座内のミーティングでの発表と協議
- ・学会での研究成果発表
- ・論文の作成状況に関するチェックとフィードバック

第4学年：

- ・研究進捗状況に関する講座内のミーティングでの発表と協議
- ・学会での研究成果発表
- ・論文の作成と投稿
- ・学位申請に向けた準備に関する指導
- ・学位審査時に必要なプレゼンテーション技法の指導

公衆衛生学

指導教授名 小橋 元

第1学年：

- ・日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本産業衛生学会、日本社会医学会、日本循環器病予防学会、日本健康教育学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・Am. J. P. H., Am. J. Epidemiol., JE など学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高めるとともに、疫学研究デザイン、統計解析に習熟する。
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・疫学調査、遺伝子解析、生理・生化学的測定、統計解析など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する知識を高めるとともに、疫学研究デザイン、統計解析に習熟する。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・SPSS、SASなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する知識を高めるとともに、疫学研究デザイン、統計解析に習熟する。
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する知識を高めるとともに、疫学研究デザイン、統計解析に習熟する。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、revise, accept に進める。
- ・学位論文審査を申請する。

法 医 学

指導教授名 黒 須 明

第1学年：

- ・法医解剖に参加し、法医解剖を習得する。
- ・法医学会、中毒学会、病理学会などの専攻領域関係学会に参加し、先端学術研究を理解し、習得する。
- ・Legal Med、J Forensic Sci、Am J Forensic Med Pathol 等の学術論文を抄読し、専攻領域の学識を深める。
- ・専攻領域の研究について、法医解剖を通して興味を持った内容についてディスカッションを行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。
- ・研究を行う上で必要な手技の習得を行う。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究テーマに関連する学術情報を理解習得する。
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究テーマに関連する学識を深める。
- ・研究を行う上で必要な手技の習得を行う。
- ・研究計画に従って研究を行い、現時点における進行状況、結果についてディスカッションを行う。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究テーマに関連する学術情報を理解習得する。
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究テーマに関連する学識を深める。
- ・研究を行う上で必要な手技の習得を行う。
- ・研究計画に従って研究を行うとともに、研究結果についてディスカッションを行い、結果をまとめる。
- ・専攻領域の学会において研究結果を発表する。
- ・学術論文の作成を勧める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究テーマに関連する学術情報を理解習得する。
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究テーマに関連する学識を深める。
- ・専攻領域の学会において研究結果を発表する。
- ・学術論文を完成させて学術雑誌に投稿する。
- ・学位論文審査を申請する。

内科学（心臓・血管／循環器）

指導教授名 井 上 晃 男

第1学年：

- 1 循環器学会、心臓病学会、冠疾患学会、心血管インターベンション学会、心エコー団会、不整脈学会などの学会に参加させ、専攻領域の最先端学術情報を習得せしめる。
- 2 Circulation, Journal of American College of Cardiology, Circulation Journal, などの学術誌の掲載論文を抄読し、専攻領域に関する学識を高めさせる。
- 3 専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成させる。
- 4 基礎実験、動物実験、臨床検体を用いた生化学的、分子生物学的データ測定、生理学的手法など研究の遂行に必要な技術の習得を開始させる。

第2学年：

- 1 専攻領域の学会に参加させ、研究テーマに関する学術情報を習得せしめる。
- 2 専攻領域の学術論文を抄読し、研究テーマに関する学識を高めさせる。
- 3 研究に必要な技術を向上せしめるとともに研究計画を遂行させる。
- 4 研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- 5 統計手法を学ばせ、データの解析・評価法を習得せしめる。

第3学年：

- 1 専攻領域の学会に参加させ、研究テーマに関するさらなる学術情報を習得せしめる。
- 2 専攻領域の学術論文を抄読し、研究テーマに関する学識をさらに高めさせる。
- 3 研究の遂行とともに、研究結果を解析し、その内容をまとめさせる。
- 4 関連学会で研究成果を発表させる。
- 5 研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- 1 研究成果の論文を完成させ、学術誌に投稿する。
- 2 投稿論文の改訂、再投稿、アクセプトへと進める。
- 3 学位審査を申請する。

内科学（消化器）

指導教授名 入澤篤志

第1学年：

- ・ 消化管、肝臓、胆道、膵臓領域の基本的な病態を理解する。
- ・ 消化器領域における、分子生物学、免疫学を学ぶ。
- ・ 消化器画像診断を学び、画像の成り立ちと病態について理解する。
- ・ 消化器領域の病理について、病理形態学、免疫組織学について学び実習を行う。
- ・ 各種消化器臨床手技を学びながら、臨床研究の必要性を理解する。
- ・ 研究のプロトコル作成、倫理審査書類作成を学び、実践的にトレーニングを行う。
- ・ 指導教官と討論し、研究テーマの選択を行う。

第2学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解、習得する。
- ・ 専攻領域について多くの論文を抄読し、研究に関する学識を高めると同時に、研究の立案方法について学ぶ。
- ・ 各種消化器臨床手技については、1年次よりもより高度な手技を学び実践する。
- ・ 与えられたテーマに関連した基礎的研究について情報を収集し理解する。
- ・ 与えられたテーマについての研究計画を立案し、研究を開始する。

第3学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する最新の学術情報を理解、習得する。
- ・ 専攻領域について多くの論文を抄読し、研究に関する学識を高めると同時に、研究の立案方法について学ぶ。
- ・ 各種消化器臨床手技については、2年次よりもより高度な手技を学び実践する。
- ・ 可能であれば、研究結果についてまとめを行い、論文作成、学会報告を行う。
- ・ 副論文となり得るテーマについても研究を進め、学会発表や論文執筆を行う。

第4学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解、習得する。
- ・ 専攻領域について多くの論文を抄読し、研究に関する学識を高めると同時に、研究の立案方法について学ぶ。
- ・ 各種消化器臨床手技については、3年次よりもより高度な手技を学び実践する。
- ・ 主論文作成を完成させ、学術雑誌に投稿し受理されることを目指す。
- ・ 自身の研究内容について後進に指導するとともに、次なる研究テーマを後進に与え共に研究を進める。
- ・ 学位論文審査を申請する。

内科学（腎臓・高血圧）

指導教授名 石 光 俊 彦

第1学年：

- ・腎臓学会、高血圧学会、透析医学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・Kidney Int, JASN, Hypertension, J Hypertensなど学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・SPSS, JMPなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、revise, acceptに進める。
- ・学位論文審査を申請する。

内科学（神経）

指導教授名 平 田 幸 一

第1学年：

- ・神経学会、脳卒中学会、頭痛学会、睡眠学会、臨床神経生理学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・Neurology, Lancet Neurology, J Neurol Sci, Ann Neurol, Eur Neurol, Cephalalgiaなど学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・臨床研究の立案と進め方、生理・生化学的測定、病理組織評価、臨床検査・治療など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・SPSS, JMPなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・関連する学会（主に国内学会）において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・関連する学会特に国際学会において研究成果を発表する。
- ・指導者のもと研究成果の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、acceptに至らしめる。
- ・学位論文審査を申請する。

内科学（内分泌代謝）

指導教授名 麻 生 好 正

第1学年：

- ・実験技術の理解と習得（I）
 - ① 基本的な実験器具の取り扱いの習得：ピペット、クリーンベンチ、遠心分離器、等
 - ② 細胞培養技術の習得：培養細胞の継代、凍結保存、培地の作製、等
 - ③ 実験動物の飼育技術の習得：マウスの飼育、交配、genotyping、等
 - ④ 実験動物の解析：糖・インスリン負荷試験、解剖、等
 - ⑤ 蛋白実験技術の習得：Western blot 法、免疫沈降法、flowcytometry、ELISA 法、等
 - ⑥ 遺伝子実験技術の習得：real time RT-PCR 法, southern blot 法、等
- ・実験の記録法の習得：実験ノートの作製
- ・リサーチミーティング・抄読会での発表：自らのデータまたは最新の論文を紹介する
- ・学会参加：学会参加し、自らの研究テーマに関連する知識を習得する

第2学年：

- ・実験技術の理解と習得（II）
 - ① 細胞培養技術の習得：初代培養技術の習得、等
 - ② 実験動物の飼育技術の習得：遺伝子改変動物の作製法の理解、等
 - ③ 実験動物の解析：グルコースクランプ法等、自らの実験に必要な実験系の確立
 - ④ 蛋白実験技術の習得：蛍光免疫組織染色法と画像解析装置での解析、等
 - ⑤ 遺伝子実験技術の習得：プライマーの設計、DNA マイクロアレイ、等
- ・実験計画書の記載：動物実験計画書、遺伝子組換え実験計画書等の記載、手続き
- ・抄読会での発表：最新の論文を自ら選び、紹介する
- ・学会参加：学会参加し、自らの研究テーマに関連するセッションでの議論に参加する

第3学年：

- ・研究の遂行
- ・リサーチミーティングでのデータ提示とディスカッション
- ・国内外の学会での研究成果の発表
- ・データのまとめと論文作成開始
- ・研究費の申請

第4学年：

- ・国内外の学会での研究成果の発表
- ・論文の作製と投稿
- ・（追加）実験の遂行
- ・学位審査の準備と申請

内科学（呼吸器・アレルギー）

指導教授代行名 平 田 幸 一

第1学年：

- ・呼吸器学、免疫学の分子生物学、遺伝学、再生医療の最新の総論を英文で各1編づつ合計6編よみ説明できるようにする。
- ・研究手技 (I)
 - ① 細胞培養 (iPS細胞含む) の基本手技の習得 ② 細胞増殖の評価法の習得
 - ③ SDS電気泳動法の習得 ④ western blotting 法の習得 ⑤ 動物実験の講習会参加と実際の実験への参加
- ・研究テーマ遂行とプログレスレポートによる教室内での研究成果の発表と discussion
- ・論文抄読会への参加

第2学年：

- ・Podcast (英語) による呼吸器・免疫学にかかわるテーマの学習 (American Journal of Respiratory and Critical care Medicine, European Respiratory Medicine)
- ・研究手技 (II)
 - ① DNA実験講習会への参加 ② 細胞や組織からの遺伝子抽出 ③ PCR法の取得 ④ LC-MSの解析法の習得
 - ・研究テーマ遂行とプログレスレポートによる教室内での研究成果の発表と discussion
 - ・研究テーマの国内学会での発表
 - ・論文抄読会への参加

第3学年：

- ・研究テーマ遂行とプログレスレポートによる教室内での研究成果の発表と discussion
- ・研究テーマの国際学会での発表
- ・論文作成
- ・論文抄読会への参加

第4学年：

- ・研究テーマ遂行とプログレスレポートによる教室内での研究成果の発表と discussion
- ・研究テーマの国際学会での発表
- ・論文作成と投稿
- ・学位審査の申請
- ・論文抄読会への参加

内科学（リウマチ・膠原病）

指導教授名 倉沢和宏

第1学年：

- ・ リウマチ学の基本を教科書、臨床実習、カンファレンス参加を通して習得する
- ・ 免疫学の教科書を通読し、免疫担当細胞、サイトカイン、細胞間ネットワーク、炎症・自己免疫の機序について理解する。
- ・ 臨床疫学の教科書を通読し、医学研究のデザインについて習得する
- ・ 研究作業の基本操作の理解と習得（1）
　①実験器具の取り扱い、② 臨床検体の取り扱い方、③ELISAによる測定、④ Flowcytometryによる解析、⑤マウスの取り扱い方
- ・ 論文抄読会参加と発表
- ・ 研究テーマの選択
- ・ 研究の遂行と教室での定期的な結果の発表と討議

第2学年：

- ・ 臨床リウマチ学の実習、カンファレンス、論文抄読を通して更なる習得
- ・ 免疫学の論文などを通して更なる習得
- ・ 臨床疫学の学習とそれに必要な統計学の習。
- ・ 研究作業の基本操作の理解と習得（2）
　①細胞培養、② 核酸抽出、PCR、③ Western blot、④遺伝子組み替え、細胞移入
- ・ 学会に参加し研究を理解する
- ・ 研究の遂行と教室での定期的な結果の発表と討議

第3学年：

- ・ 臨床リウマチ学の実習、カンファレンス、論文抄読を通して更なる習得
- ・ 論文の書き方を学習
- ・ 研究の遂行と教室での定期的な結果の発表と討議
- ・ 学会に参加し、研究成果を発表する
- ・ 論文の作成

第4学年：

- ・ 臨床リウマチ学の実習、カンファレンス、論文抄読を通して更なる習得
- ・ 研究の遂行と教室での定期的な結果の発表と討議
- ・ 学会に参加し、研究成果を発表する
- ・ 論文の作成と投稿
- ・ 学位審査論文の申請

精神神経科学

指導教授名 下田和孝

第1学年：

- ・日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本精神科診断学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本統合失調症学会、日本うつ病学会などの学会に参加し、専攻領域の学術情報を習得する。
- ・American Journal of Psychiatry, Archives of General Psychiatry, Lancet Psychiatry など精神医学専門領域関連の雑誌のみならず、Nature, Science など掲載された学術論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・研究テーマを決定し、研究計画についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて計画を立案する。
- ・研究の遂行に必要な技術・手技・統計分析法を選択し、習得させる。

第2学年：

- ・研究の遂行に必要な技術・手技・統計分析法を選択し、習得させる。
- ・関連領域の学術論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・中間結果についてディスカッションを行い、必要に応じて研究計画の修正を行う。
- ・日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本精神科診断学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本統合失調症学会、日本うつ病学会などの学会に参加し、得られた予備的データについて発表させる。

第3学年：

- ・研究の遂行に必要な技術・手技・統計分析法を選択し、習得させる。
- ・関連領域の学術論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・中間結果についてディスカッションを行い、必要に応じて研究計画の修正を行う。
- ・日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本精神科診断学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本統合失調症学会、日本うつ病学会などの学会に参加し、得られた予備的データについて発表させる。
- ・研究結果の論文作成のための準備を開始させる。

第4学年：

- ・研究の遂行に必要な技術・手技・統計分析法を選択し、習得させる。
- ・関連領域の学術論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本精神科診断学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本統合失調症学会、日本うつ病学会などの学会に参加し、得られたデータについて発表させる。
- ・研究結果の論文を完成させ、学術雑誌に投稿し、受理されるように指導を行う。
- ・学位論文としての審査を申請する。

小児科学

指導教授名 吉原重美

第1学年：

- ・日本小児科学会、日本小児保健協会などの学会に参加し、小児科医として領域に関わらず知らなければならない小児医療、小児医学に関する幅広い知識を取得する。
- ・日本小児科学会雑誌、米国小児科学会雑誌(Pediatrics誌)、Journal of Pediatrics誌などの国内外の学術論文を抄読し、専攻領域の知識を取得するとともに、英語読解力を身に付ける。
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じた研究テーマを決め、研究計画を作成する。

第2学年：

- ・研究テーマと関係の深い専攻領域学会に参加し研究関連する学会情報を理解し習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌（専門誌）の論文を抄読し、研究に関する学識を高めるとともに、英語読解力も高める。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・SPSSなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価のスキルを習得する。

第3学年：

- ・研究テーマと関係の深い専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解し習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文をなるべく多く抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究の遂行を継続するとともに、指導者とともに研究結果を解析し、指導者のアドバイスを受けながらその内容をまとめる。
- ・関連する国内、国外の学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を完成しインパクトファクターのなるべく高い学術雑誌に投稿する。
- ・論文の修正を行い、受理されるようにする。
- ・学位論文審査を申請する。

皮膚科学

指導教授名 井川 健

第1学年：

- ・研究テーマの選択
- ・選択したテーマに関する基礎的な教科書、論文を集め、よく読み、何がわかつていて、何がわかつていないことなのかを理解することに努める。
- ・研究室における基本的な機器の使い方などを習得する。
- ・Journal Clubにおいて、自らも積極的に参加、発表する。
- ・研究開始。
- ・研究の進捗についての discussion を行う。月一回を目安に、適宜。

第2学年：

- ・研究の遂行。
- ・関連学会へ参加することにより、自分の研究にフィードバックさせる。
- ・研究の進捗について discussion を行う。月一回を目安に、適宜。

第3学年：

- ・研究の遂行。
- ・関連学会へ参加することにより、自分の研究にフィードバックさせる。
- ・研究の進捗について discussion を行う。月一回を目安に、適宜。
- ・自分の研究成果についてのまとめを行うと同時に、学会において発表を行う。
- ・論文作成開始。

第4学年：

- ・研究の遂行。
- ・関連学会へ参加することにより、自分の研究にフィードバックさせる。
- ・研究の進捗について discussion を行う。月一回を目安に、適宜。
- ・自分の研究成果についてのまとめを行うと同時に、学会において発表を行う。
- ・論文投稿。
- ・追加実験と再投稿。
- ・学位論文審査の申請。

放射線医学

指導教授名 棚

靖

第1学年：

- ・日本医学放射線学会学術大会等の専攻領域の学会に参加し、先端学術情報を理解する。
- ・Radiology、AJR、JMRIなど専攻領域の学術雑誌を抄読し、学識を高める。
- ・専攻領域の研究・学術情報に基づいて指導者と学生が討論し、研究テーマを決める。
- ・大学院基本医科学の講義等を利用して研究デザインについて学び、学生自ら研究計画を立案する。
- ・研究に必要な画像解析法などの手技の習得を開始する。
- ・海外からの留学生の場合、必要があれば、放射線診療の基本事項について知識を補う。

第2学年：

- ・専攻領域および研究に関連する診療科の学会に参加し、研究対象となる病態と診療についての学術情報を理解する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進捗状況、中間結果に関して検討し、必要ならば方向を修正する。
- ・SPSSなどの統計解析ソフトを用いたデータ解析法および評価法を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域および研究に関連する診療科の学会に参加し、研究対象となる病態と診療についての学術情報を理解する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文を完成して、学術雑誌に投稿し、編集部との対応を適切に行い、採択を目指す。
- ・学位論文審査を申請する。

病 理 診 断 学

指導教授代行名 平 田 幸 一

第1学年：

- ・ 病理学会、臨床細胞学会などの学会や学会主催の講習会に出席し、専門領域の先端学術情報を理解習得する。
- ・ 海外英語論文を読み、専攻領域の学識を高める。
- ・ 専攻領域の研究の意義・学術情報について討論を行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを定め、研究計画を作成する。
- ・ 病理組織学的評価、免疫染色を含めた特殊染色の評価など研究に必要な手技の習得を始める。

第2学年：

- ・ 専攻領域の学会や学会主催の講習会に出席し、専門領域の先端学術情報を理解習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を読み、研究に対する学識を高める。
- ・ 研究に必要な手技の習得を継続し、研究計画を遂行する。
- ・ 研究の進捗状況や中間結果について討議し、必要なら助言や指導を行う。
- ・ 統計解析ソフトを用いてデータの解析と評価を習得する。
- ・ 外科病理学の基礎を学ぶ。

第3学年：

- ・ 専攻領域の学会や学会主催の講習会に出席し、専門領域の先端学術情報を理解習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を読み、研究に対する学識を高める。
- ・ 研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・ 関連する学会で研究結果を発表する。
- ・ 研究成績を論文としてまとめる。
- ・ 外科病理学の基礎を学ぶ。

第4学年：

- ・ 専攻領域の学会や学会主催の講習会に出席し、専門領域の先端学術情報を理解習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を読み、研究に対する学識を高める。
- ・ 関連する学会で研究結果を発表する。
- ・ 研究成績を論文として完成し、学術雑誌に投稿し、査読と受理にすすめる。
- ・ 学位論文審査を申請する。
- ・ 外科病理の基礎を学ぶとともに難解例や稀少例の診断にも取り組む。

先端内科学

指導教授名 玉野正也

第1学年：

- 日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本医学放射線学会、日本臨床検査医学会、日本神経学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- 関連学術雑誌、特に英文誌を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- 専攻領域の研究・学術情報について担当教員とディスカッションを行い、各自の興味と研究能力に応じたテーマを決めて研究計画を作成する。
- 生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など、研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- 研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- 研究の進捗状況や中間結果について担当教員とディスカッションし、助言・指導を受ける。
- 医学統計の基礎を理解し、統計ソフトを用いたデータの解析・評価を習得する。

第3学年：

- 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- 研究を継続するとともに研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- 研究成果のプレゼンテーションを行い、担当教員の評価を受ける。
- 関連する学会において研究成果を発表する。
- 研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- 関連する学会において研究成果を発表する。
- 研究成果の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、査読を受けて改訂し受理へと進める。
- 学術論文審査を申請する。

医工学

指導教授名 安 隆 則

第1学年：

①循環器病学、腎臓病学やリハビリテーション医学に工学的視点を取り入れてエビデンスを整理する。

・具体的目標

- 1) 循環器、腎臓やリハビリテーション分野におけるエビデンスを批判的にレビューする方法を身につける。
- 2) 研究仮説の立て方、それに適した研究デザインの選択、生物統計、データ管理と品質管理、データ解析の手法を身につける。
- 3) 微小循環学と心血管リハビリテーション学の研究手段を身につける。
- 4) 研究論文を作成できる論理的思考、語学力を身につける。

②実臨床を経て浮かんできたクリニカルクエスチョンを基盤として臨床研究実施計画書を作成する。

・具体的目標

- 1) テーマに関するこれまでの知見を徹底的に調べる。
- 2) 作業仮説を立てる。
- 3) 指導官と研究デザインの選択、生物統計、データ管理と品質管理、データ解析の手法を話し合う。
- 4) 臨床研究実施計画書を完成させる。

第2学年：

①を継続。

② 臨床研究実施計画書に従って、指導官の指導の下で医療スタッフの協力を得ながら開始する。研究結果を月2回の定期ラボミーティングで発表し、軌道修正する。関連する学会や研究会で研究成果の一部を発表。

第3学年：

①を継続。

③ 臨床研究実施計画書に従って、研究を継続する。研究結果を月2回の定期ラボミーティングで発表し、軌道修正する。関連する学会や研究会で研究成果を発表し論文作成を進める。

第4学年：

①を継続。

- ・研究成績の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、revise, acceptに進める。
- ・学位論文審査を申請する。

腫瘍外科学

指導教授名 小嶋一幸

第1学年：

- ・ 外科学会、癌学会、癌治療学会、消化器外科学会、小児外科学会、乳癌学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域における海外一流誌を抄読し、学識を高める。
- ・ 専攻領域の研究・学術情報について指導教官とディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・ 生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・ 研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・ 研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・ 統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・ 研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・ 研究成績のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・ 関連する学会において研究成績を発表する。
- ・ 研究成績の英文論文作成を進める。

第4学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・ 関連する学会において研究成績を発表する。
- ・ 研究成績の論文作成を完成して国際学術雑誌に投稿し、revise accept に進める。
- ・ 学位論文審査を申請する。

消化器外科学

指導教授名 窪 田 敬一

第1学年：

- ・外科学会、消化器外科学会、消化器病学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解習得する。
- ・Annals of Surgery, Surgery, Gastroenterology, Hepatologyなどの学術雑誌の論文を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・臨床上の問題点、疑問点を把握するため、消化器外科の臨床にて、検査を含む術前管理、手術、術後管理に従事する。
- ・動物実験、細胞培養、生理・生化学的測定、病理組織学的検査、電子顕微鏡検査など研究に必要な手技の修得を経験者に従事し、開始する。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を収集しつつ、理解を深める。
- ・専門領域の学術雑誌の論文を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・研究に必要な手技の修得と精度を確保したところで、研究計画を実行し、予備実験を開始する。
- ・予備実験結果について評価・考案し、指導教官から助言・指導を受け、研究方向性を決定する。
- ・本実験を開始し、実験データの採取・記録する。
- ・臨床データをまとめて論文作成を目指す場合は臨床上の問題点、疑問点に基づきテーマを決定し、データ収集を開始する。
- ・統計解析ソフトを用いて、データの解析法・評価法を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を収集しつつ、理解を深める。
- ・専門領域の学術雑誌の論文を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・本実験を進め、研究結果を解析し、実験データ（臨床データ）をまとめる。
- ・臨床データをまとめる場合、何が新知見か検討し、他施設の発表も参考にし論文の方向性を決定する。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、研究の新知見や意見を評価する。
- ・関連領域学会にて研究成果を発表し、追加実験が必要な場合、開始する。
- ・論文作成を開始する。

第4学年：

- ・専門領域の学術雑誌の論文を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・専門領域の学術雑誌の論文を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・論文を完成させ、学術雑誌に投稿、査読者と論文修正し、論文を受理させる。
- ・学位論文審査を申請し、審査を受ける。

心臓・血管外科学

指導教授名 福田宏嗣

第1学年：

- ・外科学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、血管外科学会などの関連学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解、習得する。
- ・JTCS, ATSなどの関連領域の学術雑誌を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・専攻領域の研究・学術情報について議論を行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療などの研究履行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・外科学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、血管外科学会などの関連学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解、習得する。
- ・JTCS, ATSなどの関連領域の学術雑誌を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の進行状況や中間結果について学生と議論し、助言・指導を行う。
- ・統計解析ソフトを用いたデータの解析、評価法を習得する。

第3学年：

- ・外科学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、血管外科学会などの関連学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解、習得する。
- ・JTCS, ATSなどの関連領域の学術雑誌を抄読し、専門領域の学識を高める。
- ・研究遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。

第4学年：

- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成をはじめ、完成して学術雑誌に投稿する。
- ・学位論文審査を申請する。

呼吸器外科学

指導教授名 千 田 雅 之

第1学年：

呼吸器外科学会、胸部外科学会、外科学会、呼吸器内視鏡学会、肺癌学会、移植学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解、習得する。

専攻領域の研究、学術情報についてディスカッションを行ない、研究テーマを決め、研究計画を作成する。

第2学年：

専攻領域の学会に参加し、研究に関連する最新の学術情報を理解、習得する。

研究に必要な手技を習得し、研究に関する学識を高める。

研究テーマに沿った具体的な Goal、Question を策定する。

第3学年：

専攻領域の国内学会に加え、世界肺癌学会、ESTS、EACTS などの海外学会にて最新の学術情報を取得理解する。

研究を遂行し、結果に対する解析、プレゼンテーションをおこない、仮説の検証を行なう。

研究結果を、国内の学会にて発表する。

第4学年：

研究結果をまとめ、海外の学会にて発表する。

研究結果を論文にまとめ、投稿し、revise する。

学位論文審査を申請する。

外科学（脳神経）

指導教授名 金 彪

第1学年：

脳神経外科領域における細分野において必要な病態生理の理解をさらに深めるべく、それぞれ細分野の診断ならびに手技に精通するよう努めて、それぞれの専門分野の診療にさらに深く関わる。脳神経外科学会において、脳神経外科全般の知識をさらに深めるとともに、分科会である脳腫瘍学会、脳神経血管内治療学会、脳卒中の外科学会、日本脊髄外科学会、日本定位・機能神経外科学会などに、積極的に参加してそれぞれの領域における最先端の課題、技術的進歩の方向性などについて理解を深める。J Neurosurgery, Neurosurgery, Acta Neurochirurgicaなどの学術雑誌を読み、領域の学識を高める。専攻領域の選択を行い、選択する活動の領域を決定し、アカデミックなキャリアパスを展望するようにする。統計学や病理学、総論などについてまた小動物のハンドリングや麻酔、投薬、維持などについて、手技の習得を開始する。

第2学年：

専攻する細分野、領域の研究に関連する学術情報を収集する技術を取得する。自分が関心を持つ領域の学術情報を学会や学術誌などを通じて獲得する。研究計画の立案を指導者とともにを行い、プロトコールや技術的な習得についても訓練、助言指導を受ける。

第3学年：

専攻する分野の研究進展の実情に関して知識を深める。学会に出席し、さらに論文を読んで方法論に関する検討、データの分析ができるよう能力を高める。さらに研究計画を実施するとともに、技術的な課題などを解決し、研究のデータの蓄積を進める。中間的な研究成果を教室内のセミナーや研究会で発表し、プレゼンテーションの訓練を行う。

第4学年：

研究テーマに関連する論文文献を涉猟、情報を収集し、その領域の先端情報を把握しているようになる。また教室内のセミナーや領域の研究会、学会で、研究の成果として蓄積したデータに関するプレゼンテーション発表を行う。論文を執筆、完成して学術雑誌に投稿する準備を行う。学位を申請する準備を行う。

整 形 外 科 学

指導教授名 種 市 洋

第1学年：

- ・ 日本整形外科学会、日本整形外科基礎学会、日本脊椎脊髄病学会、日本手外科学会などの整形外科主要学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・ J Bone Joint Surg, Spine, J Hand Surgなどの学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・ 専攻領域の研究・学術情報について討議し、研究テーマを決め、研究計画を策定する。
- ・ 生体力学的実験、動物実験、組織評価、実験的画像（MRI、X線）撮像法、医用統計など研究遂行に必要な手技の習得を行う。

第2学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関連する学識を高める。
- ・ 研究に必要な技術の習得を継続しつつ、研究計画に沿って研究を遂行する。
- ・ 研究の中間結果につき討議しながら、研究の助言・指導を行う。
- ・ データ解析法を習得し実験結果の評価、修正などを行う。
- ・ 関連学会において研究成果の中間報告を行う。

第3学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関連する学識を高める。
- ・ 研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・ 関連学会において研究成果を発表する。
- ・ 研究成果の論文作成を開始する。

第4学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関連する学識を高める。
- ・ 関連学会において研究成果を発表する。
- ・ 研究成果の論文作成を継続し、完成させる。
- ・ 完成した論文を学術雑誌（英文誌）に投稿し、採用させる。
- ・ 学位論文審査を申請する。

泌尿器外科学・男性科学

指導教授名 釜 井 隆 男

第1学年

- ・論文捏造、二重投稿等を事例とし、サイエンティストとしての倫理観の育成に努める。
- ・サイエンティストにとって、自由な発想、仮説、研究方法の立案、精緻な客観的観察、論理的な思考、英語での情報発信、等の一連の流れの重要性を認識する。
- ・泌尿器科学会、癌学会、癌治療学会、泌尿器腫瘍学会、性機能学会、排尿機能学会等に参加し、専攻領域の先端学術情報を習得し理解する。
- ・Oncology や Urology の関連の基調となっている雑誌に定期的に目を通し、専攻領域の学識を高める。
- ・DNA、RNA、タンパク質の抽出等の基礎を理解し、手技を開始する。
- ・関心ある領域に関して、指導教官とディスカッションを進め、研究の立案を開始する。

第2学年

- ・専攻領域に関連した学会に参加し、また、専攻領域の国際学術誌に頻繁に目を通し、研究に関連する最新の学術情報の理解と習得に努める。
- ・ターゲットとなる複数の molecules に関して、DNA、RNA、タンパク質等の発現を調べる実験を開始する。
- ・統計解析ソフトを用いて、得られたデータの入力・解析方法を理解し習得する。

第3学年

- ・専攻領域に関連した学会に参加し、これまでの知見を発表する。
- ・専攻領域に関連した学会や国際学術誌から、常に、研究に関連する最新の学術情報の理解と習得に努める。
- ・ターゲットとなる複数の molecules に関して、DNA、RNA、タンパク質等の発現を調べるとともに、必要に応じて、siRNA、knock down、knockout 法等を用いて、機能解析実験を開始する。
- ・統計解析ソフトを用いて、得られたデータの入力・解析を進める。
- ・国際学術誌での論文発表に向けて、準備を開始する。

第4学年

- ・専攻領域に関連した学会に参加し、これまでの知見を発表する。
- ・専攻領域に関連した学会や国際学術誌から、常に、研究に関連する最新の学術情報の理解と習得に努める。
- ・指導教官とディスカッションを進めながら、客観的観察と論理的思考がきちんと論文の中で反映されているかを十分に吟味し、編集長（Editor）への cover letter を準備し、図表の見栄えを考え、専攻領域の国際学術誌へ論文を投稿（Submission）する。
- ・改正（Revise）に誠意を持って対応すべく、追加実験ならびに論文を修正し、受理（accept）に向けて進める。
- ・学位論文審査を申請する。

眼 科 学

指導教授名 妹 尾 正

第1学年：

- ・臨床眼科学会、眼科学会総会、眼科手術学会等の学会に積極的に参加し、専門領域の専攻を含めた見識を広める。
- ・手術検討会、抄読会、症例検討会を通じ、興味ある研究分野に対する自己啓発と探求心を育てる。
- ・眼科診療技術、手術に対する技術習得、研究に必要な技術習得を幅広く学ぶ。

第2学年：

- ・1年時に参加した学会に加え、研究者として最も興味ある専門部会や学会に参加して、学術情報を理解し、研究構想を固める。
- ・研究に必要な情報収集の手段と見識、相応する研究法・必要な技術の習得を行う。
- ・積極的に国内外の専門分野における学会に参加し、研究方針をまとめる。
- ・研究成果のチェックおよび修正を含めた論文作成に向けた今後の研究方針を検討していく。

第3学年：

- ・国内外の専門領域における学会に参加、発表を行い、さらなる知見を広める。
- ・研究の遂行を進めるとともに、研究結果の分析・評価を行い、今後の研究方針に生かす。
- ・研究成果をもとに論文作成に入る。

第4学年：

- ・これまでの研究成果をまとめ、専門学会での発表を含め、論文作成および、論文投稿に向けた準備を重ね、投稿を行う。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学

指導教授名 春名眞一

第1学年：

- ・日本耳鼻咽喉科学会、日本鼻科学会、日本耳科学会、日本気管食道科学会、日本頭頸部外科学会などの学会に参加し、先端学術情報を理解・習得する
- ・The Laryngoscope, Auris Nasus Larynxなどの学術論文を抄読し、専攻領域の学識を高める
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究のテーマを決め、研究計画を作成する
- ・生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など研究遂行の必要な手技の習得を開始する

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究に関する学識を高める
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う
- ・SPPS、JMPなどの統計解析ソフトを用いた、データ解析・評価を修得する

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究に関する知識を高める
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果の解析を進める
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する
- ・関連する学会において研究結果を発表する
- ・研究成果の論文作成を進める

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関する学術情報を理解・習得する
- ・専攻領域の学術論文を抄読し、研究に関する学識を高める
- ・関連する学会において研究成果を発表する
- ・研究成果をもとに論文を作成、完成して学術雑誌に投稿する
- ・学位論文審査を申請する

産科婦人科学

指導教授名 深澤一雄

第1学年：

- ・周産期学に関して正常異常妊娠と分娩、産科手術と麻酔、NICUと新生児外科を理解する。
- ・腫瘍学に関して病理等の基礎腫瘍学、診断と治療法（手術、抗癌剤、放射線、免疫療法、緩和療法）を理解する。
- ・生殖内分泌学に関してホルモン等の基礎内分泌学、ARTを含む不妊治療法を理解する。
- ・女性医学に関して思春期・更年期の基礎生理学、種々の病態を理解する。
- ・感染症学に関して周産期感染症、婦人科感染症、腫瘍ウイルス学、性感染症を理解する。

第2学年：

- ・第1学年での周産期学、腫瘍学、生殖内分泌学、女性医学、感染症学について、さらに学識を深めると共に研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・実験病理学、生化学、生理学、薬理学について理解し、研究に必要な手技を習得する。
- ・細胞遺伝学、分子生物学について理解し、遺伝子診断と治療法について基礎的知識、技術を習得する。
- ・関連領域の学会、研究会に参加し、研究に関する学術情報を理解、習得する。
- ・関連領域の学術論文を抄読し、研究に関する学識を深める。

第3学年：

- ・研究に必要な手技の習熟を継続すると共に、研究計画を遂行する。
- ・研究計画の遂行を継続すると共に、研究結果を解析する。
- ・研究内容をまとめ、意義を評価する。
- ・関連領域の学術論文を抄読し、研究に関する学識を更に深める。
- ・関連領域の学会、研究会に参加し研究成果を発表すると共に、研究に関する学術情報を更に深める。

第4学年：

- ・関連領域の学術論文を抄読し、研究に関する学識を更に深める。
- ・関連領域の学会、研究会に参加し研究成果を発表すると共に、研究に関する学術情報を更に深める。
- ・研究成果について論文作成し、学術雑誌に投稿する。
- ・学位論文審査を申請する。

救急医学

指導教授名 小野一之

第1学年：

- ・ 日本救急医学会、日本臨床救急医学会、日本集中治療医学会などの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・ 上記に加え、自らの研究テーマに関係が深い、外傷、熱傷、蘇生、神経救急、循環器救急、腹部救急、災害、航空医療などの学会に参加するとともに、関連する学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・ 生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める
- ・ 研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・ 研究の進行状況や中間結果について討議し、助言・指導を行う。
- ・ SPSSなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・ 研究を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・ 口座内で研究成果の発表を行い、その意義を評価する。
- ・ 関連する学会において研究成果を発表する。
- ・ 研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・ 専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・ 専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・ 関連する学会において研究成果を発表する。
- ・ 研究成果の論文を完成して学術雑誌に投稿する。
- ・ 学位論文審査を申請する。

麻酔・疼痛学

指導教授名 濱 口 真 輔

第1学年:

- ・ 麻酔科学会, ペインクリニック学会, 緩和医療学会や国際学会などの学術集会に参加させる上で、専攻分野の先端学術情報を学ばせ、理解を深めさせる。
- ・ 邦文誌や英文誌に掲載されている専攻分野に関する学術情報を抄読させ、研究内容に関する理解を深めさせるとともに、自身が行う研究の位置付けを認識させる。
- ・ 本学での大学院生に対する教育講義に積極的に参加させ、医学研究に必要な基本的事項を熟知させる。
- ・ 研究遂行に必要な倫理的配慮を指導し、研究に必要な手続きを確実に実施させる。
- ・ 研究遂行に必要な手技の習得をさせる。

第2学年:

- ・ 専攻領域の学会に参加させ、自身の研究に関連する学術情報の習得と研究の位置付けを再確認させる。
- ・ 専攻分野に関する学術情報を抄読させ、自身が行う研究の新奇性を確認させる。
- ・ 本学での大学院生に対する教育講義に積極的に参加させ、医学研究に必要な基本的事項を熟知させる。
- ・ 研究遂行に必要な手技の習得がなされ、研究が進行していることを確認する。
- ・ 研究の進捗状況や研究継続に関して生じた問題点などについて、指導医と討論して対応する。
- ・ この時点までに得られている研究結果を解析し、以後の研究の方向性を確認する。

第3学年:

- ・ 専攻領域の学会に参加させ、研究経過の発表(preliminary presentation)を行わせる。
- ・ 研究遂行に必要な手技の習得がなされ、研究が進行していることを確認する。
- ・ 研究の進捗状況や研究継続に関して生じた問題点などについて指導医と討論して対応する。
- ・ この時点までに得られた研究データを解析し、以後の研究の方向性を確認する。
- ・ 研究成果の論文(英文)作成を進める。

第4学年:

- ・ 専攻領域の学会(国内、海外)に参加させ、研究成果に関する発表を行わせる。
- ・ 研究の進捗状況や報告するに当たって生じた問題点などについて適宜報告を受け、大学院生と討論し、対応する。
- ・ 最終的な研究結果の解析に基づいた研究論文を完成させ、revise, acceptに進める。
- ・ 学位論文審査を申請する。

形成再建外科学

指導教授名 朝 戸 裕 貴

第1学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得させる。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識の向上をはかる。
- ・研究計画の立案を行い、研究に必要な手技の習得に着手する。
- ・基本医科学の講義を聴講して、なるべく多くの単位の取得に努める。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得させる。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識の向上をはかる。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行させる。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・基本医科学の講義を聴講して必要単位をすべて取得させる。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得させる。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識の向上をはかる。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行させる。
- ・研究の進行状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・日本形成外科学会基礎学術集会において、研究成果を発表させる。
- ・研究成果の論文を作成して学術雑誌に投稿させ、revise、acceptに進める。

第4学年：

- ・学位論文審査を申請し、論文審査会において発表させる。
- ・日本形成外科学会基礎学術集会において、研究成果を発表させる。

口腔外科学

指導教授名 川 又 均

第1学年：

- ・日本口腔外科学会、日本口腔科学会、口腔腫瘍学会、日本有病者歯科医療学会、日本癌学会、AACR、EACMFS、ICOMS、ACOMSなどの学会に参加し、専攻領域の先端学術情報を理解・習得する。
- ・口腔外科学会雑誌、Cancer Res、Int J Cancer、Nature、Science、NEJM、Lancetなど学術雑誌の論文を抄読し、専攻領域の学識を高める。
- ・専攻領域の研究・学術情報についてディスカッションを行い、学生の興味と研究能力に応じて研究テーマを決め、研究計画を作成する。
- ・生理・生化学的測定、病理組織評価、細胞培養、動物実験、臨床検査・治療など研究の遂行に必要な手技の習得を開始する。

第2学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究に必要な手技の習得を継続するとともに、研究計画を遂行する。
- ・研究の振興状況や中間結果についてディスカッションし、助言・指導を行う。
- ・SPSS、JMPなどの統計解析ソフトを用いた、データの解析・評価を習得する。

第3学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・研究の遂行を継続するとともに、研究結果を解析し、その内容をまとめる。
- ・研究成果のプレゼンテーションを行い、その意義を評価する。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を進める。

第4学年：

- ・専攻領域の学会に参加し、研究に関連する学術情報を理解・習得する。
- ・専攻領域の学術雑誌の論文を抄読し、研究に関する学識を高める。
- ・関連する学会において研究成果を発表する。
- ・研究成果の論文作成を完成して学術雑誌に投稿し、revise, acceptに進める。
- ・学位論文審査を申請する。

先端外科学

指導教授名 岡田 弘

第1学年：

- 各自が専門とする学会の参加を通じて、専攻領域の先端学術情報を理解・習得するように指導する。
- 先端外科学の基本技術である内視鏡に関して、専門とする分野に関しての最新情報を、ハンズオンプログラム等に積極的に参加することで習得させる。
- 各自が専門とする専攻領域の研究の今後の方向性についてディスカッションし、学生の興味を研究能力によりテーマを決定し、研究計画作成の指導を行う。
- 分子生物学的実験手技・組織学的実験手技・動物実験手技の基本を指導する。

第2学年：

- 各自の専攻領域の学会・研究会に参加し、研究遂行に必要な最新情報を収集する様に指導する。
- 研究計画書のマイルストーンに従って、研究を行う上で必要な、生化学的実験手技・分子生物学的実験手技・病理組織学的実験手技・細胞工学的実験手技を習得できるように指導する。
- 実験結果を解析するのに必要な、統計技法を習得できるように指導する。
- 研究の中間報告を発表する会を開催し、他の研究分野からの評価と助言を受けられるように指導する。
- 相手に伝わる研究成果発表方法を、具体的に指導する。

第3学年：

- 研究内容に関しての評価と助言を行い、研究・実験を遂行出来るように指導する。
- 研究計画書のマイルストーンの達成を評価すると併に、研究結果の解析を指導する。
- 研究成果の論文化に向けた、具体的な指導を行う。

第4学年：

- 研究内容の、国際学会での発表に向けて指導する。
- 研究内容を、impact factorのある peer review 誌に投稿し accept されるまで、継続的に指導する。
- 学位論文審査を申請する。